



12月1日現在在籍数 284名

気仙沼市立松岩小学校

■ 本校の教育目標 ■

志を持ち、
かしこく、やさしく、たくましく
生きる児童の育成

令和6年度 学校だより NO. 8

令和6年12月3日 (火) 発行

もったいない。 ～「裕作、ちゃんとはだけらいん。」～

気仙沼市立松岩小学校 校長 佐々木 裕作

先週は、日中のお忙しい中、第3回学習参観にお出でいただき、大変ありがとうございました。

また、職員の感染症罹患者が増え、学習参観、学年 PTA 行事の一部を変更して実施したこと、そして、そのお知らせが、参観日前日となってしまったこと、お詫び申し上げます。保護者の皆様の御理解、御協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

さて、今日の題は「もったいない」です。保護者の皆様は、食事後に「ちゃんとはだけらいん。」と言われたことはありますか。そもそも、「はだける」という言葉はご存じですか。

これが正しい気仙沼の方言なのか、気仙沼市の一部で使われていた方言なのかは分かりませんが、私の家では、ご飯茶碗に米粒が残っていたりすると、「裕作、ちゃんとはだけらいん。」と言われたものでした。つまり、「はだける」とは、「残さず食べる」「きれいに食べる」という意味で使っていました。

そう話されて育ってきた私は、いつしか、ご飯茶碗に一粒のご飯も残さないようになりました。親戚も含めた家族のおかげで、そういう習慣が身に付いたのだと思います。この習慣は、教員になってからも続いており、給食でご飯が出る時は、ご飯缶には、米粒一つ残しません。蓋についているご飯粒も全て食べます。学級担任をしていたときにも、子供たちのご飯缶に米粒が残っていないか確認して回ったほどです(きれいに食べた子は、「先生!」と言って、空になったご飯缶を見せてくれたりもしたものでした)。

先日、朝会でSDGSの話をしました。17の目標の中から取り上げたのは、「12 つくる責任 つかう責任」と「13 気候変動に具体的な対策を」で、日本の「食品ロス(食べられる物を捨てる)」を切り口に子供たちに話をしました。日本の食品ロスは、令和4年度の統計で472万トン、東京ドームを入れ物にすると、約3.8個分にもなり、日本人1人一日当たり、小さなおにぎり1個分を捨てている計算になるそうです(日本の人口は、約1億2450万人ですから、1億2450個のおにぎりを、毎日捨てていることになります)。捨てられた食品は、燃えるごみとして焼却されますが、一年間の燃えるごみの処分費が約2兆円、そのうち食品ロスの焼却費は、約40%で8,000万円にも上り、そのほとんどに税金が使われるそうです。さらに、物を燃やせば、二酸化炭素が発生します。人間が生活上で排出する二酸化炭素は、地球温暖化の原因の一つと言われています。「『食品ロス』って、いろいろともったいないし、環境にも良くないんだな」と思ったので、朝会で子供たちに伝えたいと思った次第です。

この話をした後、先生方から「苦手な牛乳を少しでも飲もうと頑張っています」「クラス全体で残食を減らそうと頑張っています」というような話を聞き、うれしく思っているところです。ちなみに、松岩小学校は、7・8・9月と、中央給食センターから配膳されている学校の中で、最も残食の少ない小学校として給食便りで紹介されました。一番児童数が多い学校なのに、残食が一番少ないというのは、本当に素晴らしいことなので、そのことも子供たちに伝えました。

最後に、「SDGSとは、いつもの生活の中で、『もったいない』を考えること」「一日一回、みんなのため、地球のためになることをしてみませんか」と話し、子供たちにできそうなこととして、「誰もいない部屋の電気を消す」「ご飯を残さず食べる」「シャワーや水道の水を止めながら使う」「早寝をする」「ごみを拾ったり、分別したりする」「みんなと仲良く過ごす」などを伝えました。御家庭でそういう様子が見られたら、「みなさんのために、地球のためにいいことしたね。」と、お子さんをたくさん褒めてあげてください。

余談になりますが、方言で驚いたことを一つ。水梨小学校に勤めていたとき、靴の中に水が入ってカッポカッポとなることを、子供たちが「たごつた」と話していたのを聞き、非常に驚きました。「何釣った?」と聞き返したほどです。私の地域では、「かっぼぐつた」と言っていたので…。所変われば…です。